

日刊人吉新聞

発行所
人吉新聞社
〒868-0072人吉市西閣下町112-3
電話(0966)24-2111(代)
FAX(0966)24-2113(代)
(HP) www.hitoyoshi-sharepla.com
(E) daiyou@hitoyoshi-press.com

人吉海軍航空 基地跡整備 平和の希求へ

(下)

くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク代表

高谷 和生

基準づくり必要では

全国の戦争遺跡・遺産で町づくりを進めている施設では、本飛行場「クマリン」と同様にPRキヤクターが作られています。人気アニメ「ガールズ&パンサー」に代表されるアニメに登場するモニター表現とコスパレは、日本のサブカルチャー文化の定番の一つとなり、抵抗感が薄いのも事実です。



知覧飛行場高架水槽
(南九州市指定文化財)

しかし、戦争や兵器の表現が、現実の戦争の悲惨さではなく「萌え」と結びつく記号的な表現となり、政治性や歴史事実を踏まえずに、国際感覚からかい離することを問題視する指摘もあります。

また、軍服コスプレ報

道がなされたその日のうちに「配慮不足を反省」との町の発言もありました。今回の議論は、モニターツアー企画の是非を論じたり、モデルの男性を批判しているのではありません。これは善意で進められた戦争遺跡保存活動が、戦争に結びついた戦前日本の危惧から

宇佐海軍航空隊城井2号掩体壕
(宇佐市指定文化財)



昭和初期、戦勝した日露戦争戦跡の荒廃を目にした退役軍人を中心に戦跡保存運動が盛り上がりました。ただし、この運

動が結果的には満州事変から太平洋戦争まで長く続いた「十五年戦争に世論の一翼を結びつけた」という研究者の指摘もあります。

私たちは「善意の加害者」であった先の大戦での過去の過ちを忘れてはいけません。戦争遺跡の保存・整備と活用は、あ

くまでも「平和の希求」を基盤とすべきなのです。戦争を経験していない私たちだからこそ、歴史から学び、72年続いた「平和を守る」ことが求められているのです。



出水海軍基地戦闘指揮所地下壕(出水市文化財答申中)

先進地域である鹿児島県南九州市の知覧飛行場・知覧特攻平和会館では、戦後一貫して「特攻隊員の慰霊」で検証し、文化財指定や整備も進められています。全国で2例目となる戦争遺跡の文

化財指定(城井2号掩体壕)を行った大分県宇佐市の宇佐海軍航空隊では、民間団体宇佐市塾と連携しながら専門検討委員会や宇佐平和祈念館を含めた戦跡整備の協議を重ねています。

また、隣県の出水市では、修学旅行生の平和学習・民泊受け入れを出水民泊プランニングが中心となり、出水海軍航空隊に関する証言や資料継承を鹿児島大学との連携で進められています。

今回の問題を契機として、錦町でも外部から各分野の専門家の意見を聞く「人吉海軍航空基地跡保存整備検討委員会(仮)」の様な組織をつくり、庁内の若手職員で作り上げたプロジェクト内容をもう一度検討し、歴史観も含め、基準づくりを行うべきです。そして、導かれた事柄を庁内全体で共有することが必要です。平和を視点とする基準がなければ、このような事案は繰り返される恐れがこれからもあります。

今回の問題から導かれる結論は、全ここに帰結されます。(終わり)